

# 家庭・社会における実践力の育成をめざした技術・家庭科教育 —消費者として今の私にできること—

技術・家庭科 高河原 健 宇都宮 ふみ

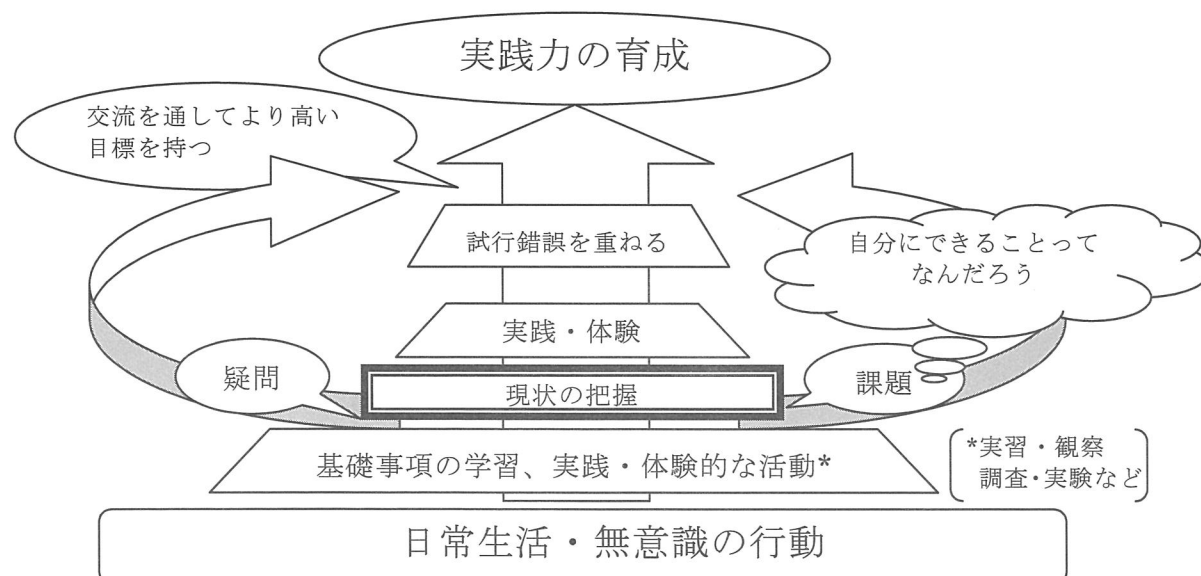
## 1. 主題設定の理由

技術・家庭科での「家庭・社会生活における実践力」とは、生活の自立のために必要な知識・技能を身に付け、自ら課題を見出し、解決策を導き出すことができる能力や態度のことであり、生命を維持し人間らしい生活を営む上で必要不可欠な力である。具体的には、技術分野では、ものづくりを支える能力などを高め、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度を育成すること、家庭分野では、自己と家庭、課程と社会のつながりを重視し、生涯の見通しを持って、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成することといえるだろう。

しかし、このようなねらいをもった技術・家庭科での学びが、実生活に十分生かされていない生徒の姿を目にすることがある。刻々と変化する社会においては、主体的に対応する中で生じた課題に対し、様々な角度から働きかける思考力、判断力、想像力、そして表現力が必要とされるが、一方で、大量生産・大量消費という効率が求められ、膨大な情報が溢れる中で、主体的に生活しなくても日々の日常生活を送ることができるという現実もある。そこで、本校技術・家庭科では、生徒一人ひとりが社会を構成する一員であり、日常生活を営む上で一消費者であるという自覚を芽生えさせるとともに、今、自分が置かれている現状を把握し、出来ることを考え、自分なりに解決する力を養うため、日々の生活にできるだけ即した内容をもとに学習に取り組んでいる。

課題を見つけ解決策を模索し、自立していく過程においては、自分以外の考えを聞いたり、互いに試したりする協同の活動が不可欠であり、また、言語を媒体とするのみならず、作品や製作物、ものを作る場合の設計図などをおして、交流は深まる。その場を共有し、互いに感じる感性を出し合う中で、自分とは異なる価値観を知り、より高い次元へと成長する過程を技術・家庭科では大切にしたいと考える。

### 【技術・家庭科での「家庭・社会生活における実践力」の育成に関する学習モデル図】



## 2. 実践の概要

家庭・社会での実践力の育成をめざして、本校の技術・家庭科が求める生徒像とは具体的にどのようなものなのか。中学校の発達段階に応じたわれわれの考える身に付けさせたい力をもとに示すと、以下の6項目なる。

### 技術・家庭科がめざす生徒像

- 1】生活を支える技術の重要性を認識し、適切に評価する目と自立に向けた知識や技能が身についている
- 2】新しい技術や実生活、社会生活の現状や問題点を発見できる
- 3】自己の生活を見つめ、家庭生活や社会生活との関連を意識しながら、そこから生まれる課題を発見し分析できる
- 4】課題解決に向け、基礎・基本となる知識や技能を持ち様々な視点から解決法を提案できる
- 5】互いにアイデアを出し合いながら、他者とのかかわりを大切にし課題解決に向かう態度が身に付いている
- 6】実生活の事物・自称を新たな見方や考え方でとらえ、よりよい生活の創造に向け主体的に取り組める

また、我々がめざす生徒を育成していくためには学習場面に以下のような学習活動を積極的に組み入れることが必要であると考え。これらの6項目について、各授業の場面にできるだけ多く取り入れたものを実践していくことが大切であると考え。

### 学習における場面設定

- 1】身の回りや社会生活で用いられている技術の素晴らしさ、技術が果たしている役割を感じる場面
- 2】実践的・体験的な活動の場面
- 3】様々な問題の中から自らの課題を適切に見出す場面
- 4】知識や技能を活用し、解決に向けて取り組む場面
- 5】他者との交流により、新たな考えの構築や課題を明確化する場面
- 6】よりよい生活に向け、自分の意見を持ち、発信し行動する場面

### 3. 実践事例

#### ○技術・家庭科（技術分野）

##### ①. 単元（題材）

#### 情報セキュリティとモラル ～ディベート「LINE は中学生にとって必要か？」～

##### ②. 単元設定の理由と目標

###### 理由

近年、SNS を使った犯罪やいじめ、一般常識から逸脱した行為をネット上にあげるなどのトラブルが後を絶たない。情報化社会で生活する我々にとって、このような問題は避けて通れないものになっている。このような現状をふまえ、技術・家庭科では、知識基盤社会に生きる現代の中学生に対し、ネットワークの仕組みを学習するだけでなく、それらを利用する上での自己防衛の方法や守るべきマナーなどについて学習する必要があると考える。

この2、3年で携帯電話・パソコン向けコミュニケーションアプリである LINE の普及は、急速に進んでいる。無料でアプリケーションソフトがダウンロードでき、通信キャリアや携帯端末の種類を問わず、相手と通話やトーク機能（チャット）が行えること、さらに、インターネットを介して情報をやり取りするため無料通話が楽しめることが受け入れられ、爆発的な利用者数の増加がみられる。しかし、一方で、この LINE を使ったいじめや性犯罪、個人情報の漏えいなどが社会問題となっている。これは、ネットワーク環境が整っていれば、誰でも容易に加害者にも被害者にもなりうるという状況に私たちは置かれているということなのである。

このような問題から、LINE という題材を通じ、情報モラルとコンピュータの利用について、生徒たちに考えさせた。中学生といえ、必ずしも適切な判断や責任を取ることができないかもしれない年代に、はたして「LINE は必要であるのか？」をディベートによって考えさせた。それは、ツール自体に問題があるのか、それとも、使う私たちに問題があるのか。行動次第で便利にも危険にもなり得るツールの正しい利用を理解させたいと考えこの題材を設定した。

本校3年生の生徒は、アンケートを実施したところ約90%が携帯電話やスマートフォンを所持しており、35%が今回題材として扱う LINE をインストールしているという結果が出た。LINE をインストールしている生徒は、ID を交換し、ネット上で友達になりグループを作る。仲の良いもの同士は、グループでトーク（チャット）を楽しんでいるようである。幸い本校生徒の中には、ネット上でトラブルに巻き込まれたなどの事例は発生していないが、今後、起こらないとは決して言えない。この生徒たち全員に、自分のとった行動が情報モラルに反するかどうか、判断できる能力が现阶段で十分備わっているとは考えにくい。また、LINE についてどのようなツールであるのかをおおまかに知っている生徒は多いが、細かな仕組みや危険性について理解できていない生徒も多い。この授業を通じて、ネット社会におけるマナーやルール、携帯電話端末の使い方などを再度見直して欲しい。

LINE は便利であるが、その反面、危険なツールにもなり得るということは、最近のニュースなどを見ればわかる。しかし、どのように利用したら危険になってしまうかについては、わからな

い生徒が多い。そういった中で、LINE というツールに問題があるのではなく、LINE の使い方に問題があると生徒たちに気付かせたい。なぜなら、LINE などのコミュニケーションサービスは、端末を介して通話やトーク（チャット）を行う。端末さえあれば、「いつでもどこでも誰とでも」つながることができる。これは一見たいへん便利に思えるが、人と人とが面と向かって話をしないコミュニケーションは、危険が多いのである。それを今回の調べ学習で十分理解して欲しい。LINE を通して情報モラルやコンピュータの利用方法を理解し、ディベートをすることによって、LINE が中学生にとって必要であるかどうか、調べた情報をまとめ客観的に判断してほしい。それらを適切に判断する目が養えれば、LINE に限らず、コミュニケーションツールを正しく有効に利用できるであろうし、果たして今の自分に必要であるのかも判断できるであろう。

ディベートをしていく中で生徒が調べきれなかった部分については補い、生徒たちが避けては通れない情報社会で、考え、そして、自ら行動できる能力を身に付けられるよう支援したい。

目標・情報を扱う際のセキュリティとモラルについて考える。

- ・情報社会の安全性を考える。

### ③. 指導計画 (全4時間)

第1次：情報モラルとコンピュータの利用について考えよう (1時間)

第2次：情報収集をしてまとめよう (1時間)

第3次：ディベートをしよう (2時間)

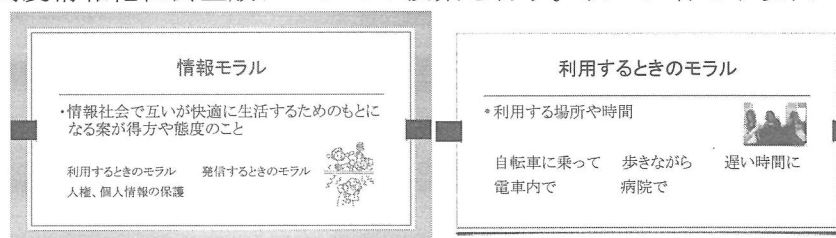
### ④. 単元評価規準

関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言をしている。</li> <li>・班をまとめようと率先して動いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な情報から必要な情報を取捨選択し、公正な判断ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを利用したり、データを集約したりして、それらをわかりやすく発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルと情報セキュリティについて理解している。</li> </ul>

### ⑤. 指導内容や方法，教材，教具

第1次：情報モラルとコンピュータ

この時間には、単元の導入として高度情報化社会全般についての授業を行う。我々が暮らす現代社会は、情報が溢れその情報に振り回されないよう、しっかりとした秩序を持って行動する必要がある。その為の情報モラルを「利用




するときのモラル」「発信するときのモラル」「人権や個人情報」という3つの観点で学習させる。

この時に大切なのは、道徳的な視点で具体例を挙げ、自分自身の考えをまとめさせるのではなく、あくまでも技術的な視点で情報をとらえ、その取扱いを整理させ正しく判断する能力を身につけさせることである。


**発信するときのモラル**

- 情報を発信するときは、その情報を受け取る側の立場に立って、内容や表現を考慮することが大切



**人権や個人情報**

- 人権・プライバシーの保護: 他人への誹謗・中傷・無責任な発言などで人権やプライバシーを侵害しないように
- 肖像権の保護: 自分の姿や顔の写真や絵を勝手に送信されないように
- 個人情報の保護: 名前・住所・電話番号・年齢などを勝手に発信されないように



第2次：情報収集をしてまとめよう

「LINE は中学生にとって必要か？」を肯定側、否定側に分かれ、ディベートを行うための準備を行わせる。右のプリントは、実際に生徒がディベートを行うために準備したものである。子に生徒は、肯定側に立っているがご覧の通り、否定側の予想される立論や質問、応答などに対しても事前に考えさせておく。

	肯定側	否定側
準備 (準備)	① LINEはスマホやタブレット、PCなど通信が便利でインターネットが繋がらなければ使えない。LINEは世界で最も使われているコミュニケーションツールで、世界中で使われている。LINEは友達と連絡を取りやすい。LINEは写真や動画を簡単に送ることができる。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。	① LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。
質問	② LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。	② LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。
応答	③ LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。	③ LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。
総括 (総括)	④ LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。	④ LINEは友達と連絡を取りやすいが、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは無料で使える。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。

第3次：ディベートをしよう

ディベートの準備用紙

右の写真は、実際のディベートの様子であるが、中央の電子黒板なども有効に利用し自分たちの主張をより効果的に行っている。また、下にディベートの評価用紙を載せている。この記述からもわかるようにディベートの勝敗については、いかに客観的な（多くの情報を見比べる、信頼性の高い発信元など）データをを用いて、主張を行い、質問に対して的確に回答するかであるように思われる。



ディベートの様子

⑥. 成果と課題

今回の学習を行い、知識基盤社会に生きる私たちの避けては通れない現実に向き合った感がある。生徒たちは、LINE というコミュニケーションツールを通じ、今回身に付けて欲しい仕組みや問題点、利用に関するマナーやモラルというたくさんの情報を自ら調べ提案してくれた。また、情報の確かさは、客観的なデータに起因し、人を説得するには効果的であるということを理解してくれたのではない。今後も様々な現代社会に即した題材を教材として取り入れ取り組んでいきたい。

肯定側		否定側
( 7 ) 班		( 6 ) 班
	5点満点	
4	立論に説得力がある	4
4	鋭い質問をしている	2
3	応答が的確である	3
3	相戦で話をまとめられている	3
5	全体を通して説得力があった	5
2	データやグラフを用意している	2
21	合計	19

ディベートを行って、わかったこと・感想  
 今回のディベートを通して、私は、LINE自体が悪いのではなく、私達の使い方が悪いのだと気付きました。LINEのトラブルから犯罪へつながる可能性があるのだと気付きました。私達は犯罪に巻き込まないために、LINEの使い方を正しくする必要があります。また、LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。LINEは友達と遊ぶためのツールである。

ディベートの評価用紙

## ○技術・家庭科（家庭分野）

### ①単元（題材）

#### よりよい食生活をめざして ～マジごはん計画 by 附中～

### ②単元設定の理由と目標

#### 理由

平成 17 年に食育基本法が施行されて以来、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することが出来る人間を育てることが求められている。本校 1 年生の生徒たちの食生活の実際はどうか、アンケートを通して見てみると、好き嫌いなく食べることや、朝食を食べることの意義を理解し生活している一方で、食事の準備・片づけは家族任せになっていたり、食事のマナーに関しても、問題があると感じながらも改善しようという意識が低いことということが浮かび上がってきた。便利で豊かになった現代社会において、生徒たちは食べたいものをいつでも手に入れて食べることができる状況で生活しているが、そこでは食料自給率の低下や廃棄量の増加といった課題、地域の食料事情にも目を向けて自らの食生活を送ろうとする視点も欠けていると思われる。

本題材では、生徒が地域（大阪府）の食生活の現状を知った上で、農林水産省が推進する食育プロジェクト「マジごはん計画」に倣って、さまざまな視点から「食べること」について「マジ＝本気」で考え自分たちの「マジごはん計画」を企画し実践する。そして、それぞれの「マジごはん計画」を交流することを通して、よりよい食生活に向けて継続して実践しようとする意欲を養い、自らの食生活の課題に気づき解決する力を身につけさせたい。

#### 目標

- ・地域（大阪府）の食生活の現状を知り、自らの食生活と関連させながら、よりよい食生活に向けて課題をもって工夫し実践することができる。

### ③指導計画（全 7 時間）

第 1 次	「マジごはん計画」と大阪の食生活の現状について知ろう	2 時間
第 2 次	自分たちでテーマを設定し「マジごはん計画」を考えよう	1 時間
第 3 次	実践！「マジごはん計画」（家庭での実践と計画見直し）	2 時間
第 4 次	「マジごはん計画」を交流しよう	2 時間



## 第2次 自分たちでテーマを設定し「マジごはん計画」をたてよう

- ・第1次での学習活動から見えてきた課題の改善をめざし、家庭での実践を想定し、班ごとにテーマを設定し1日分3食の献立をたてた。前時の学習で知った、大阪の食生活の現状として、野菜の摂取量が少ないことに着目する班が多く見受けられた。その中でも、朝食のみそ汁を夕食でも摂取するという実生活での経験を元にした計画や、休日の予定に合わせた短時間での調理の工夫、和食・洋食・中華といった食事のジャンルへの着目、それぞれが想定する調理の手順の違いや、予算をどの程度にするかなど、各班とも活発な意見の交流がおこなわれ、計画を進めていた。

### 実践！マジごはん計画

野菜をどんどんたべると、  
お水をたくさんおかけよ。

「**どんどん食べよう!**」をテーマに

1日分のごはん計画を立てよう! & 週末、家庭で実践しよう!

	献立	材料	作り方
朝食	ごはん おみそしる ヨーグルトor牛乳 果物(旬) ハム	米(15) キャベツ・豆腐・おみそ汁 【絶対(他は有選択)】 ヨーグルトor牛乳(2) 果物(4) ハム(半コ=0kg)1	①お米は前の晩にセーフしこ。 ②お湯をわかす ③豆腐・キャベツを小さく切る ④具材をお湯にいれる ⑤おみそとかな ⑥そりせたらもう準備
昼食	鍋焼きうどん(野菜+肉) ①②	うどんスーフ うどん(15) 牛肉(1) 肉ご(4/3) にんじん(3) 玉ねぎ(4) 白菜(4/3)きのこ(4)	①お湯をわかす ②野菜・肉を切る ③うどんスーフをいれる ④うどんをいれる ⑤肉→野菜の順にいれる ※お味噌汁
夕食	海鮮丼 おみそしる(残り) ほうれんそうのおひし トマト	まぐろ(1/4kg) いか(1) (しょうゆ) さけ(1) しらす(2) たけ(1) ほうれんそう(13) トマト(3) 米(5) (かつお節)	①お湯をわかす ②魚を切っていき ③ほうれんそうをしっかりとお湯にいれる ④ほうれんそうを切る ⑤ごはんを盛り(トマト) ⑥魚を盛り

### 実践！マジごはん計画

栄養バランスを考えて〜健康的な食事〜をテーマに

1日分のごはん計画を立てよう! & 週末、家庭で実践しよう!

	献立	材料	作り方
朝食	パンケーキ ヨーグルト 飲み物	食パン...1枚 ヨーグルト...1本 玉ねぎ...適量 バナナ...適量 ヨーグルト...1/2杯 チーズ...適量	食パンにバナナをのせる ヨーグルト・玉ねぎをのせて チーズをのせる。 トースターで焼く。
昼食	焼きそば 卵料理	めん...1人前 ソース...1人前 キャベツ...1/2個 パン餅...1/2個 ウインナー...適量 ピーマン...1個 いも...適量 卵...1個	めんをゆでている間に 同時進行で野菜を いためる めんは野菜をからめ、 ソースをまぜる。 卵料理は各自自由
夕食	白ごはん 豚肉と野菜の煮込み ひじきの煮物 冷やかし おみそしる(ワカメ) たまご	白米...1杯 豚肉...80g もやし...1袋 ひじき...1/2杯 むぎき...1パック 大豆...適量 とうもろこし...1つ みそ...適量 ワカメ...適量 玉ねぎ...1/2杯 人参...1/2杯	豚をゆでる 豚をゆでて野菜を上 しく手に豚をゆでて くり返す。(サボイテン、ニラ、 ピーマン、いも) ひじきをゆでて水で洗い なびきと大豆は湯をばら けにゆでる 砂糖としょうゆでだしを いれ煮汁がなくなるまで 煮ます。

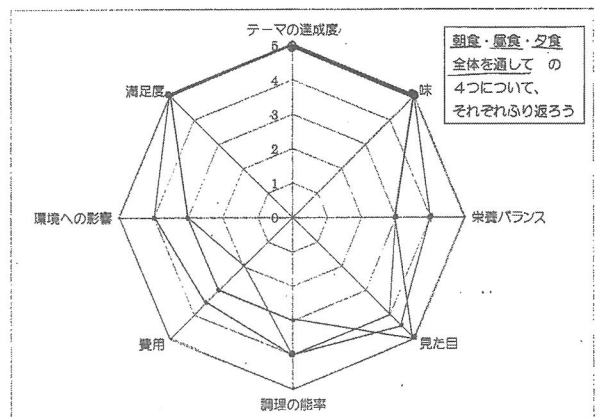
## 第3次 実践！「マジごはん計画」

- ・休日に各家庭で自分たちの計画を実践し、朝・昼・夕食それぞれと全体を通して、

  - 1) テーマの達成度
  - 2) 味
  - 3) 栄養バランス
  - 4) 見た目
  - 5) 調理の能率
  - 6) 費用
  - 7) 環境への影響
  - 8) 満足度

の8項目について5段階評価でふり返しをおこなった。

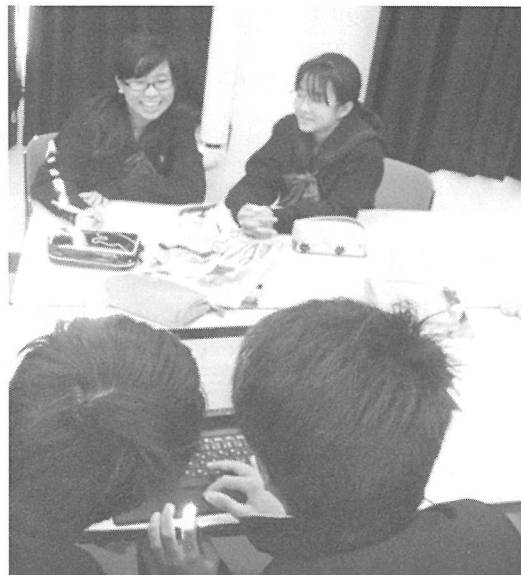
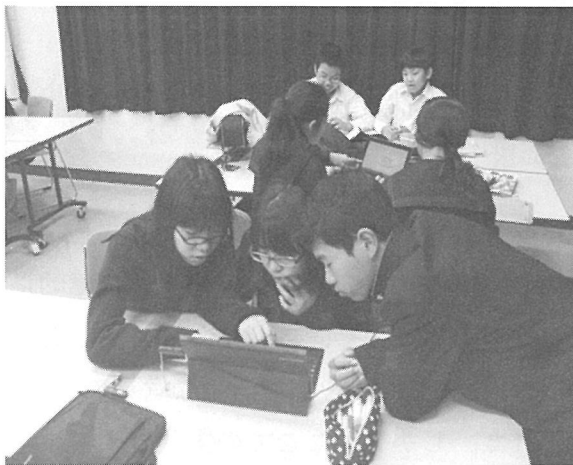
### マジごはん計画 実践してみよう





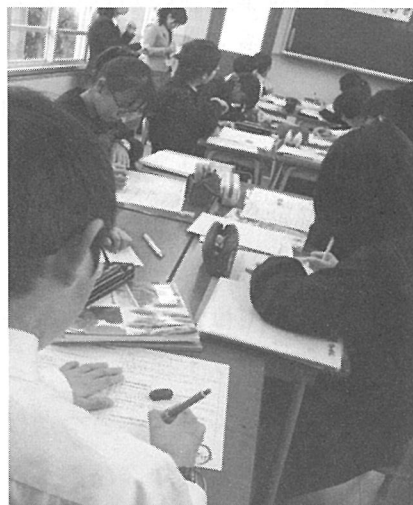
また、そこでの気づきをもとに計画（献立）の見直し、他の班への提案も含めた発表の準備にとりかかった。

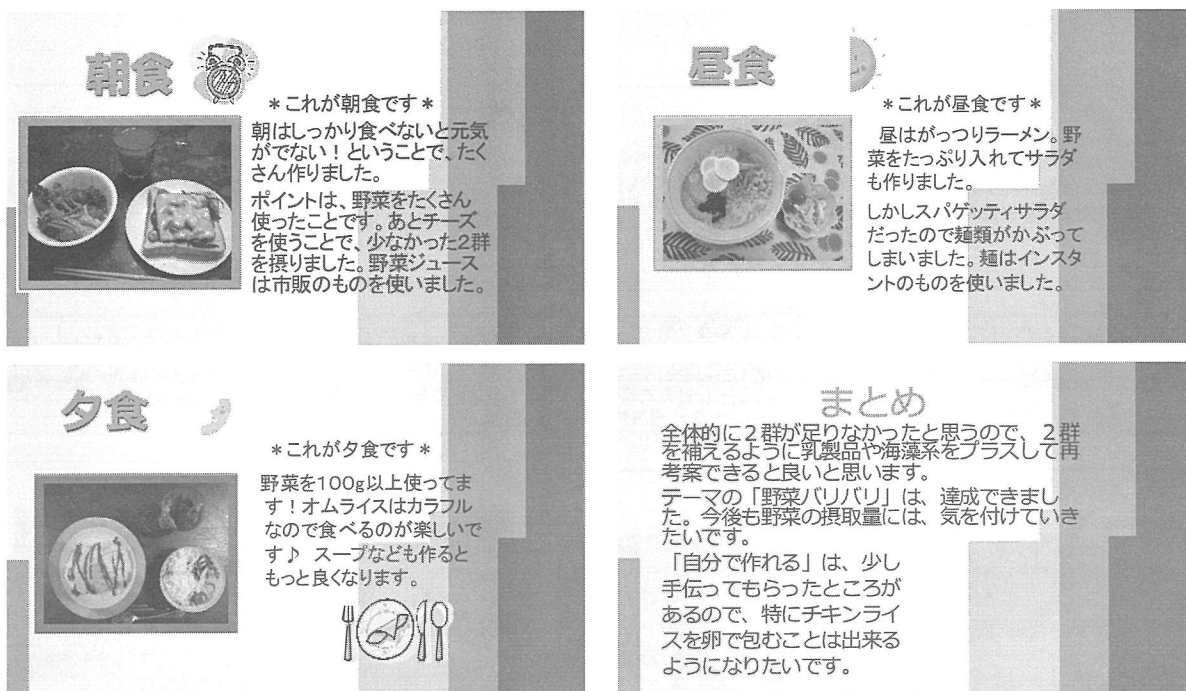
実践してみて気づいたこと		実践してみて気づいたこと	
<p><b>朝食</b> 色合いが良く、味もとてもいいけど、ちよと栄養バランスが欠けている。(野菜が少な) また、費用も結構かかっています。</p>	<p><b>朝食</b> うどんはた、おりの野菜が具として入っていて、栄養バランスもいいし、またうどんはヘルシーで、天ぷらは油が多いのでちよといいし、費用もガクンないのでちよといいし、費用もガクンないので、いい!!</p>	<p><b>朝食</b> けっこう高評価だと思ってる。味もおいしかったし、栄養もよくなってよかったと思ってる。</p>	<p><b>朝食</b> か、脂質をとりすぎない気もする。だから、もっと野菜の量を増やして、もっと野菜Eをとった方がいいと思ってる。</p>
<p><b>夕食</b> 味はとても美味しいが、油を多く使っている。しかし、油は再利用しているので、問題は無いと思ってるが、料理をする手間もとてもかかっている。</p>	<p>全体を通して味は良くて、満足感があったが、栄養バランスはあまり考えていなかった。次からは考えた。また、テーマにはよく沿って作ってあげたと思う。これからは、味だけでなく、費用や手間、栄養バランスも考えていきたい。</p>	<p><b>夕食</b> おいしい、夕食にふさわしいメニューだと思ってる。デザートもあって、いいねと思ってる。</p>	<p>全体を通して全体的には栄養のバランスはいいと思ってる。少しチョコレートに時間がかかりすぎたと思ってる。</p>



#### 第4次 「マジごはん計画」を交流しよう

- ・ 班ごとの「マジごはん計画」取り組みを発表し、意見交換しながら、今の自分に出来ることはどんなことか？これからの生活で出来るようになりたいことなどを考える交流会の時間を設定した。





### ⑥成果と課題

生徒たちは、マジごはん計画への取り組みを通して、各個人の食生活の経験を積極的に交流しながら、好きなものを食べる、与えられたものを食べるのではなく、自分たちで工夫し食生活をつくりあげる楽しさを感じることが出来たようだ。各班の発表交流会をでも活発な意見の交換が行われ、新たな発想や今後の学習への意欲向上も見受けられた。しかし、ここでの実践が、実生活でどれだけ活かされ、食品選択の意思決定や調理の計画、技能として定着しているかの評価は、現時点では定かではない。今後は、個人の消費行動が及ぼす影響へも関心を持たせ、より一層、消費者としての自覚を持って、よりよい生活を送るための実践力を育成できるような教材研究を進めていきたい。

### 3. 成果と課題

本年度の「家庭・社会における実践力の育成をめざした技術・家庭科教育」というテーマにおいて、いくつかの成果と課題が見られた。技術分野・家庭分野ともに身近な生活に即した内容について、単に技能の習得だけでなく、よりよい生活を実現するために必要な消費者としての知識や、課題を見出す様々な視点を獲得し、課題解決学習へと結びつけることができた。また、その学習の過程で適切な場面設定を行うことによって、より高い次元での思考が可能となり、これらの実践を通して、技術・家庭科での学校における学習と、家庭や社会における実践との結びつきを深めることができたと思う。

今後の課題としては、これらの課題解決学習に対し、生徒が本音と建前を使い分けて取り組むのではなく、リアリティと切実感を持って対峙するような課題の提起であったり、授業展開の工夫・改善に取り組み、学ぶ意欲へとつなげていきたい。また、本学池田キャンパスの共同研究テーマである「つながり、かさなり、ひろがる授業」の実現をめざして、3校種での教科連携や、他教科との連携をはかり、より一層系統性・階層性を意識した授業展開を進めていかなければならない。